23　測定試薬間で結果に乖離を認めたC型急性肝炎の一例

○稲垣　陽子、吉岡　隆一、松田　哲明、
西村　直雅、三觜　隆一
大津赤十字病院　検査部

【はじめに】

HCV スクリーニング検査としての HCV 抗体検査は広く普及している．今回,測定試薬間で結果に乖離を認めたC型急性肝炎の症例を経験したので報告する．

【症例】

28 歳，男性．眼球結膜黄染,尿濃縮色,食欲減退,持続する微熱を主訴に当院を受診した．生化学検査にて肝酵素,ビリルビン値の高度上昇を認め入院加療となった．肝炎ウイルス検査ではHCV抗体,HCV-RNA 陽性であり,C型急性肝炎との診断となった．

【検査所見】

生化学検査所見

AST(U/l)	656	LD(U/l)	382
ALT(U/l)	1,202	T-Bil(mg/dl)	2.49
γ-GT(U/l)	274	D-Bil(mg/dl)	1.76
ALP(U/l)	437		

感染症・免疫検査所見

HBs-Ag(IU/ml)	0.00	抗核抗体	×40
HCV-Ab(S/CO)	7.3	Homo	×40
HCV-RNA (LogIU/ml)	6.3	Speckled	×40
		HSVIgG	<2.0(-)
HCV genotype	3a	HSVIgM	0.32(-)
HBs-Ab (mIU/ml)	<10.0	CMVIgG	16.4(+)
		CMVIgM	0.39(-)
HBc-Ab(S/CO)	<1.00	EBVCAIgG	9.8(+)
IgM HBc-Ab	0.20	EBVCAIgM	0.0(-)
抗 M2 抗体	4.8	EBEAIgG	0.3(-)
		EBNAIgG	3.6(+)

HCV 抗体プロファイル検査では NS 領域での反応は認められず,ペプチドアッセイの結果はコア領域全体に強い陽性反応を示した．

HCV 抗体の推移

入院時	5 病日	12 病日	19 病日	40 病日
CLIA 法(S/CO)				
7.3	6.2	4.8	8.3	7.2
CLEIA 法(COI)				
0.9	0.5	1.5	8.1	12.8
PA 法				
2^5	2^5	2^5	2^5	2^7
イムノクロマト法				
陰性	陰性	陰性	陽性	陽性
HCV-RNA(LogIU/ml)				
6.3	NT	NT	2.5	2.2

【まとめ】

抗体の推移に着目すると CLIA 法では入院時より陽性域であるが，変動の傾向は明らかでない．CLEIA 法では入院時に陰性域であったものが,12 病日より陽性域となりその後上昇している．PA 法では入院時より陽性域であったが,40 病日より抗体の変化が認められた．当初一見感度差による乖離のように見受けられたが,経時的な検査結果からは，抗体の推移に一定の傾向が認められず,試薬感度差や反応性の差では理解し難い経過をとった．

連絡先　077-522-4131（内線 2265）